

ロシア軍によるザポリージャ原発攻撃に関する予備的評価

以下はグリーンピース東アジア、シニア核問題スペシャリスト、シヨン・バーニーによる、日本時間3月4日午後1時時点における分析です。

ウクライナ・ザポリージャでの戦闘に関する報告と画像を分析しました。我々の予備的評価は以下の通りです。

- 建物の火災と軍の交戦と見られる場所は、エネルホダール市からの主要道路のプロミスロヴァ通りのようだ。この場所は、原子力発電所の厳重警備区域の外側に位置している
- 火災が発生したと思われる建物は、プロミスロヴァ通りにある教育訓練センターの一部で、ザポリージャ原発1号機から約300～350メートルの距離にある
- 交戦は1号機から約200～300メートルの地点で行われた
- ザポリージャのウェブカメラから見えた装甲兵員輸送車は、ザポリージャ独自の治安部隊であるウクライナ内務省の3042旅団のようで、車両が敷地内に置かれているようだ

3月2日、グリーンピース・インターナショナルは、ウクライナの原子炉の戦争時の脆弱性に関する新しい分析結果(注)を発表しました。この分析では、ザポリージャ原発に焦点が当てられています。どの原子力発電所も武力攻撃によるリスクは想像を絶するものです。しかし、ザポリージャ原発はヨーロッパ最大の原発であり、6つの原子炉と、おそらく2200トン以上の高放射能使用済み燃料を有しています。

最悪の場合、原子炉の格納容器が爆発で破壊され、冷却装置が故障し、原子炉と燃料プール両方の放射能が大気中に放出される可能性があります。この場合、高い放射能レベルのために原発全体がアクセス不能になる危険性があり、さらに他の原子炉や燃料プールのカスケードが起り、それぞれが数週間かけて大量の放射能を異なる風向きに拡散させる可能性があります。その結果、ロシアを含むヨーロッパの大部分が、少なくとも何十年もの間、何百キロもの距離にわたって人が住めなくなる可能性が考えられます。これは悪夢のシナリオですが、2011年の福島第一原発事故よりもはるかに深刻な事態となる可能性があります。

原子力発電所に対する意図的な武力攻撃がない場合でも、原子炉の運転、核燃料や使用済み燃料の冷却は、送電網からの安定した電力供給に依存しています。送電網からの電力が失われた場合、ザポリージャ州の非常用ディーゼル発電機を稼働させる必要がありますが、燃料供給量に限りがあり、信頼性が高いとは言えません。

以上

(注)

<https://www.greenpeace.org/static/planet4-international-stateless/2022/03/6805cdd2-nuclear-power-plant-vulnerability-during-military-conflict-ukraine-technical-briefing.pdf>

<本件に関するお問い合わせ>

グリーンピース・ジャパン広報担当 川瀬充久

TEL: 070-3195-4165 Email: mitsuhsa.kawase@greenpeace.org